

平成28年度 行政評価事業別シート

| | | | | | | | |
|--|---------------------|------------------------|-------------|--|-----------------|------------|------|
| | 実計対象 ■ | 評価対象 ■ | 新規 □ | 完了事業 □ | ゼロ予算事業 □ | 担当者 | 田幸 学 |
| | 全体計画 | | | 経費区分 | 実施計画事業費 | 内線 | 3252 |
| 事務事業名 | 4131 温暖化防止推進事業 | | | | | | |
| 所 属 | 140100 環境部・生活環境課 | | | | | | |
| 施 策 | 03011100 環境を守る活動の推進 | | | | | | |
| 予算科目 | 会計 | 01 一般会計 | | | | | |
| | 科目 | 040105 衛生費・保健衛生費・環境衛生費 | | | | | |
| | 事業 | 070000 温暖化防止推進事業 | | | | | |
| 事業目的 | | | | 事業概要・効果 | | | |
| 地球温暖化防止のため、第二次須坂市環境基本計画及び須坂市地域新エネルギービジョンの施策を推進することにより、須坂市全体の二酸化炭素排出量の削減を目指す。 | | | | 第二次須坂市環境基本計画の具体的施策である環境行動計画に掲げる事業を積極的に推進するとともに、新エネルギービジョンの重点プログラムの導入普及とモデル事業の推進により、二酸化炭素排出量の削減を行う。 | | | |

PLAN-DO

年度実績及び予定

| 平成27年度 実績 | 平成28年度 予定 |
|---|---|
| ペレットストーブ補助0件、太陽光発電補助82件、太陽熱利用補助5件、ナノ水車ユニット技術開発事業、長野県GND基金事業、学校太陽光発電事業、1村1エネルギー登録、エコドライブ講習会、須坂市地球温暖化防止実行計画の見直し 等 | ペレットストーブ補助0件、太陽光発電補助82件、太陽熱利用補助5件、ナノ水車ユニット技術開発事業、長野県GND基金事業、学校太陽光発電事業、1村1エネルギー登録、エコドライブ講習会、公共施設屋根貸し事業 |
| 平成29年度 予定 | 平成30年度 予定 |
| ペレットストーブ補助0件、太陽光発電補助82件、太陽熱利用補助5件、ナノ水車ユニット技術開発事業、長野県GND基金事業、学校太陽光発電事業、1村1エネルギー登録、エコドライブ講習会、アシスト自転車購入費補助 | ペレットストーブ補助0件、太陽光発電補助82件、太陽熱利用補助5件、ナノ水車ユニット技術開発事業、長野県GND基金事業、学校太陽光発電事業、1村1エネルギー登録、エコドライブ講習会、アシスト自転車購入費補助 |
| 平成31年度 予定 | 平成32年度 予定 |
| ペレットストーブ補助0件、太陽光発電補助82件、太陽熱利用補助5件、ナノ水車ユニット技術開発事業、長野県GND基金事業、学校太陽光発電事業、1村1エネルギー登録、エコドライブ講習会、アシスト自転車購入費補助 | ペレットストーブ補助0件、太陽光発電補助82件、太陽熱利用補助5件、ナノ水車ユニット技術開発事業、長野県GND基金事業、学校太陽光発電事業、1村1エネルギー登録、エコドライブ講習会、アシスト自転車購入費補助 |

| | | | | | |
|-----------|--|--------|--------|--------|--------|
| 指標名 | 二酸化炭素(CO2)削減率 | | | | |
| 算式 | 平成21年度対比▲12.5 | | | | |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 |
| 目標値 | 目標 | ▲1% | ▲2% | ▲3% | ▲4% |
| | 実績 | | | | |
| 指標選定の理由 | 地球温暖化防止を推進するため。 | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | 第5次須坂総合計画 前期基本計画 平成21年度二酸化炭素排出量の-12.5% | | | | |
| 指標名 | | | | | |
| 算式 | | | | | |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 |
| 目標値 | 目標 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| 指標選定の理由 | | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | | | | | |
| 指標名 | | | | | |
| 算式 | | | | | |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 |
| 目標値 | 目標 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| 指標選定の理由 | | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | | | | | |

事業費

(単位：千円)

| | | 平成27年度 決 算 | 平成28年度 予 算 |
|------------|---------|---------------|---------------|
| 事業費 | | 4,215 | 9,629 |
| 特定財源 | 国庫支出金 | 0 | 0 |
| | 都道府県支出金 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 |
| | その他 | 63 | 247 |
| 一般財源 | | 4,152 | 9,382 |
| 人員数(人) | 正規職員 | 0.5 | 0.5 |
| | 嘱託職員 | 0.4 | 0.7 |
| | 臨時職員 | 0.0 | 0.0 |
| 人員コスト | 正規職員 | 3,604.0 | 3,604.0 |
| | 嘱託職員 | 1,082.0 | 1,893.5 |
| | 臨時職員 | 0.0 | 0.0 |
| | 計 | 4,686.0 | 5,497.5 |
| 市民一人当たりの経費 | | 0.2 | 0.3 |
| 総額 | | 8,901.0 | 15,126.5 |

(単位：千円)

| 平成27年度決算 事業費の内訳 | | |
|-----------------|-------|------------------------------------|
| 主な節 | 金額 | 内容 |
| 8節 報償費 | 0 | |
| 11節 需用費 | 301 | 消耗品費56、修繕料245 |
| 13節 委託費 | 120 | 小水力発電設備通常管理委託料120 |
| 15節 工事請負費 | 0 | |
| 19節 負担金補助及び交付金 | 3,731 | 太陽エネルギー推進協議会10、新エネルギー施設設置費補助金3,721 |
| その他 | 63 | 基金積立金63 |

(単位：千円)

| 平成28年度当初予算 事業費の内訳 | | |
|-------------------|-------|--|
| 主な節 | 金額 | 内容 |
| 8節 報償費 | 0 | |
| 11節 需用費 | 180 | 消耗品費80、修繕料100 |
| 13節 委託費 | 332 | 小水力発電設備通常管理委託料240 水車保守点検業務委託料 92 |
| 15節 工事請負費 | 5,627 | 米子地区水路ごみ対策工事5,627 |
| 19節 負担金補助及び交付金 | 3,210 | 新エネルギー活用施設設置費補助金3,000、ペレットストーブ等設置導入費補助金200、その他10 |
| その他 | 280 | 旅費33、積立金247 |

CHECK

| 個別評価 | | |
|--------|--|-------|
| 項目 | 評価観点 | 評価内容 |
| 必要性 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか | 必要不可欠 |
| 評価コメント | 現在、地球温暖化防止の推進は喫緊の課題である。 | |
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか | 有効 |
| 評価コメント | 二酸化炭素排出量の抑制のための施策を行っており効果はあると考えられる。さらに地球温暖化防止を推進するためには、より有効な施策の実施が必要である。 | |
| 効率性 | <ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか | 変わらない |
| 評価コメント | 太陽光発電システムの設置件数が減少傾向にあるため、さらに設置促進の施策が必要である。、太陽熱利用システムの設置補助を新たに開始したが、申請件数が5件と少なかったためさらにアピールが必要である。 | |

振り返り（決算年度の取組み課題）

平成25年度から取り組んできた、長野県グリーンニューディール基金事業を活用した「米子 環境・自然エネルギー防災パークモデル事業」が完了した。今後の管理運営、活用方法の充実が必要である。

ACTION

1次評価

2次評価

| | | | |
|--|------------|--|------------|
| 次年度以降の方向性 | 総合計画に沿って継続 | 次年度以降の方向性 | 総合計画に沿って継続 |
| 総合評価コメント | | 2次評価コメント | |
| <p>CO2削減のため、重要な事業。太陽光設置補助は申請件数が減少し新たに太陽熱利用に対する補助を新設。今後は通勤形態を自家用車から自転車等へ転換させるための補助メニュー等を検討。再生可能エネルギー普及導入は継続し推進する。</p> | | <p>後期基本計画、見直し後の環境基本計画における重要指標の一つ。目標達成のためには、更なる市民意識の改革が必要であり、啓発のための補助制度の検討、小水力発電等先駆的事業の継続が必要。</p> | |

外部評価

| | |
|-----------|--|
| 次年度以降の方向性 | |
| 外部評価コメント | |
| | |